

南アフリカ ブドウはシーズン終盤に近付き輸出は好調

[The Grape Reporter 2024年3月6日](#)

南アフリカのブドウの出荷シーズンは、昨年より2週間早く、3月末までに終了すると予想されている。

南アフリカ生食用ブドウ産業協会(SATI)は、梱包作業が最終段階に入り、出荷量の91%がすでに輸出検査を受けたとしている。今シーズンこれまでの出荷量は前年比18%増となっている。南アフリカは今シーズン、合計で7,580万箱を輸出する見込みである。

第8週(2月18日~22日)には、450万箱が検査を受け、これらは主にクリムゾンシードレス、オータムクリस्प、スカーロットシードレスの各品種であった。

地域別の状況

ヘックス川流域では、局地的な天候の問題により、出荷量が6%減少し、2,240万箱となった。しかし、全体としては、この地域の生産者は収穫量に恵まれ、良好な天候は着色に有利に働いたとSATIは見ている。

この地域及びベルク川流域では梱包作業が進行中である。SATIは、「この地域は、昨年よりも約2週間早く、今後2~3週間以内に出荷シーズンが終了すると予想」している。

一方、北部の各州とオレンジ川流域では梱包作業が完了し、オリファンツ川流域でもほぼ完了している。

港湾の課題

ケープタウン港での遅延により、南アフリカのブドウ輸出業者らは代替策の模索を続けている。ケープタウン港の風と霧による混乱は2月にはやや収まったが、物流の問題は残っている。

SATIは、「コストが増加するため理想的とは言えないが、第8週にはポートエリザベス港から輸出するためにさらに83万1,191箱がケープタウン港からポートエリザベス港に転送された。今シーズン中にポートエリザベス港から輸出されたブドウの総量は710万箱となり、これまでの輸出量全体の12.3%を占めている」と報告している。

青果物輸出業者フォーラム(FPEF)のアントワネット・ファン・ヘールデン物流部長は、輸出業者らはケープタウン港での貨物の動きを管理するために、国営港湾当局のトランスネットと引き続き協力していると述べた。

同部長は、「来シーズンまでには追加の機器が稼働すると期待されているが、代替港は引き続き利用される可能性がある」と述べている。

市場の実績

こうした課題にもかかわらず、ブドウ連盟のレオン・デ・コックCEOは、欧州と英国では価格と荷動きが好調であるとして、「これまでのところ、欧州市場の価格は好調に推移している。品物はバリューチェーンを迅速に動いている。今後数週間は、他の生産国からの輸入量が増えるため、市場での圧力が高まると予想される。英国でもスーパーマーケットを通じて品物は迅速に動いており、在庫量は最小限となっている。今後数週間は入荷量の増加が予想されるため、在庫水準が上昇すると予想される」と述べた。

同氏は、中東では、生産コストの低いインド産の圧力により、価格競争が激しくなっていると述べ、来シーズン以降はインドの市場シェアが増加し、南アフリカの市場シェアが減少すると予想した。

また、アジアでも課題が見られた。デ・コック氏は、輸出業者に対し、この地域に送られる商品の品質を確保するよう助言し、「アジア市場では、非常に高い水準の品質が求められる。失われた信頼を再構築するには時間がかかるため、業界としてこの市場に標準以下の品物を送らないことが不可欠である。今年の中国市場は、マクロ経済要因により厳しい状況であった」と語った。

国連機関のデータによると、南アフリカは2022年に(数量ベースで)世界第4位の生食用ブドウの輸出国にランクされた。上位3か国はチリ、ペルー、イタリアであった。